

小田急電鉄株式会社



INVESTOR EXPRESS

株主・投資家の皆さまへ

第95期のご報告

2015年4月1日から2016年3月31日まで

Contents

- 1 株主・投資家の皆さまへ
- 3 特集(複々線化事業とその効果について)
- 5 トピックス
- 7 セグメント別の概況
- 9 連結財務諸表(要約)
- 11 株主インフォメーション
- 13 会社の概要
- 14 CSRの取組み



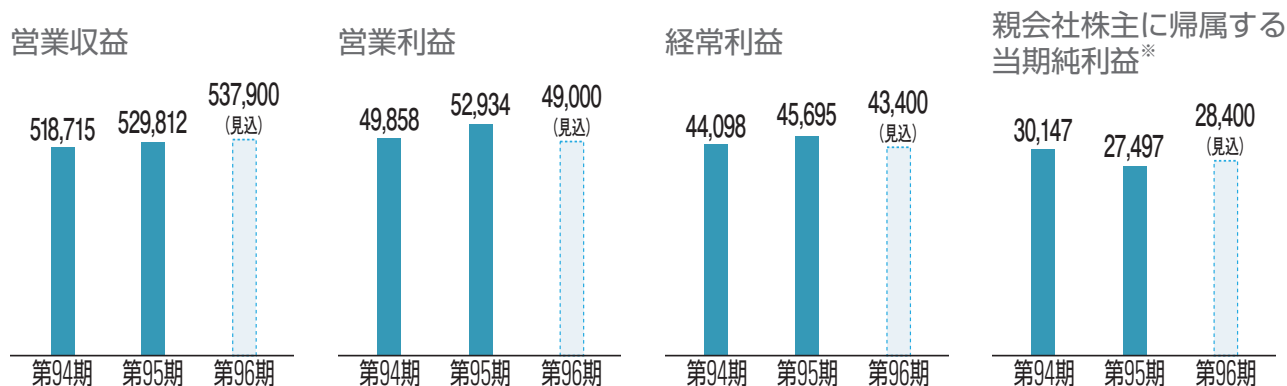
株主・投資家の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は小田急グループに対するご愛顧を賜り、厚く御礼を申し上げます。

第95期の業績及び当社グループにおける取組みにつきましてご報告申し上げます。

取締役社長 山木 利満



▶ 連結業績ハイライト (単位：百万円)



» 第95期連結決算の概要

営業収益は5,298億1千2百万円と、前連結会計年度に比べ110億9千7百万円の増加(前期比2.1%増)となりました。

これに伴い、営業利益は529億3千4百万円と、前連結会計年度に比べ30億7千6百万円の増加(前期比6.2%増)、経常利益は456億9千5百万円と、前連結会計年度に比べ15億9千7百万円の増加(前期比3.6%増)となりました。

一方、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、特別利益の減少等により、274億9千7百万円と、前連結会計年度に比べ26億4千9百万円の減少(前期比8.8%減)となりました。

» 第96期の見通し

第96期につきましては、運輸業等において、前期に受けた箱根大涌谷周辺での火山活動の活発化による影響から回復することに加え、流通業において、小田急百貨店新宿店での増収等により、営業収益は5,379億円(前期比1.5%増)を見込んでおります。

しかしながら、営業利益につきましては、運輸業や不動産業における費用の増加等により、490億円(前期比7.4%減)、経常利益につきましては、434億円(前期比5.0%減)を見込んでおります。

一方、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、特別損益の改善等により、284億円(前期比3.3%増)を見込んでおります。

» 複々線完成による効果の公表

当社では、輸送サービスの抜本的な改善策として、東北沢～和泉多摩川間(10.4km)の複々線化を東京都の連続立体交差事業と一体的に進めております。既に世田谷代田～和泉多摩川間(8.8km)については工事が完成し複々線による運転を行っており、現在は残る東北沢～世田谷代田間(1.6km)において、第97期の複々線完成、第98期の事業完了を目指し工事を進めております。

事業の進捗を踏まえ抜本的なダイヤ改正を2018年3月に予定しており、現在、ダイヤの検討を進めておりますが、今般、ラッシュ時間帯における混雑緩和や所要時間の短縮など輸送改善効果の内容がまとまったことから、本年4月28日に公表いたしました。詳細は、3～4ページをご参照ください。



複々線化事業とその効果について

1 複々線化事業の概要

当社では、輸送需要に対応するため、列車の増発や長編成化をはじめとする輸送力の増強に努めてまいりました。こうした輸送力増強策によって混雑率は若干緩和されたものの、従来の複線設備では輸送力に限界があるため、朝のラッシュピーク時間帯においては、過密ダイヤによる所要時間の

増大や、混雑率が200%を超えるといった弊害を抱えたままとなっていました。

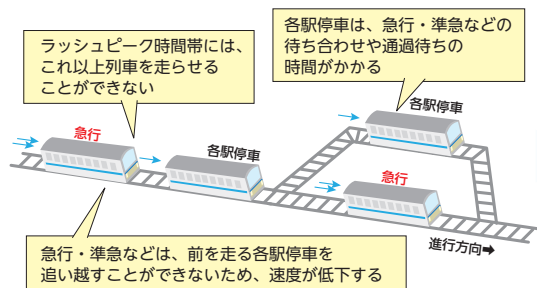
このような現状を抜本的に改善し、快適な輸送サービスを実現するため、上下線を各2本ずつ計4本の線路にする『複々線化事業』を東北沢～和泉多摩川間(10.4km)で実施しています。

複々線化事業区間

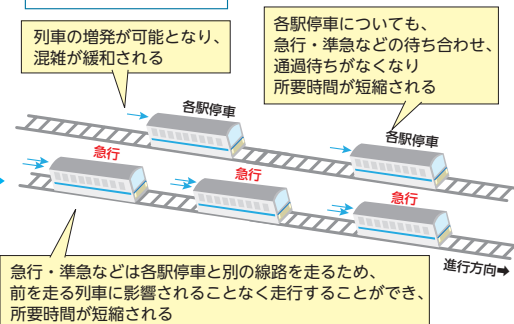


複線と複々線の比較

複線の場合



複々線の場合



2 複々線化事業の効果

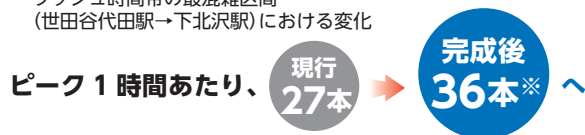
複々線完成により、朝のラッシュピーク時間帯に列車の増発が可能となり、混雑が緩和されるほか、各駅停車と急行などの優等列車が別々の線路を走ることにより、所要時間が短縮されます。

複々線完成によるラッシュピーク時間帯における輸送改善『3本の柱』

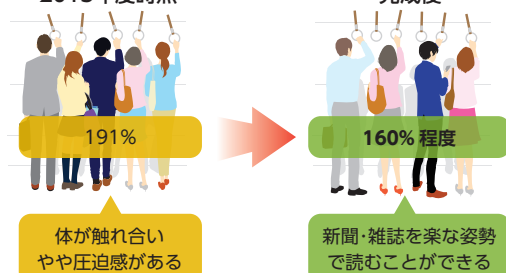
- 混雑緩和による快適な輸送環境の提供
- 所要時間短縮による都心方面へのアクセス向上
- 千代田線直通列車増発による都心中心部への利便性拡大

● 列車増発による混雑緩和

ラッシュ時間帯の最混雑区間
(世田谷代田駅→下北沢駅)における変化



混雑緩和のイメージ(混雑率)
2015年度時点



※複々線完成後の運行本数は目安であり、今後変更となる場合があります

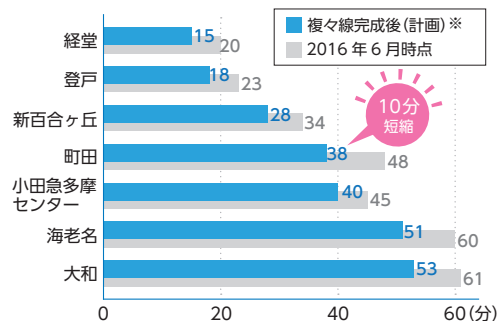
● 千代田線直通列車を増発



※新宿方面へは、現行22本→完成後24本
複々線完成後の運行本数は目安であり、今後変更となる場合があります

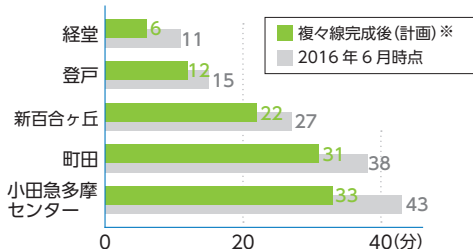
● 主な駅から新宿までの所要時間の変化

平日の8:30頃新宿に到着する列車



● 主な駅から代々木上原までの所要時間の変化

平日の8:10頃代々木上原に到着(→8:30頃大手町に到着)する列車



※複々線完成後の所要時間は目安であり、今後変更となる場合があります

3 複々線完成による増収効果

第100期、当社鉄道事業における旅客運輸収入において

50億円程度増収

を目指します

(第95期比較)



箱根エリア 「トザンイースト」 「茶屋本陣「畔屋」」オープン



トザンイースト



茶屋本陣「畔屋」

箱根登山鉄道(株)は、昨年11月27日に、小田原駅東口ロータリー前に商業施設「トザンイースト」をオープンいたしました。「トザンイースト」は、「駅ナカから駅前に・さらに街なかへ」をコンセプトに、カフェやレストラン等を中心に賑やかな雰囲気を出し、幅広いお客さまに気軽に利用していただける構成となっております。

また、箱根観光船(株)では、本年1月23日に、芦ノ湖畔の箱根町港に「茶屋本陣「畔屋」」をオープンいたしました。「茶屋本陣「畔屋」」は、江戸時代の箱根関所周辺で、参勤交代の武士が体を休めた箱根宿の「本陣」をコンセプトに、「和カフェ」と「お土産処」等を集積した“和モダン”な商業施設です。

「ホテルカンラ京都」および隣接施設の取得と ホテルへのコンバージョン工事を実施

当社は、当社グループのUDS(株)が運営する「ホテルカンラ京都」及び隣接する教育施設の土地・建物を取得し、当該教育施設についてホテルへのコンバージョン工事に着手いたしました。これは、インバウンド需要の高まりにより活況を呈する京都において、新たな収益不動産を獲得するとともに、UDS(株)の有する不動産リノベーション事業の強みを活かし、ホテル事業を拡充することを目的に実施するものです。コンバージョン工事が完了する2016年11月(予定)の開業以後は、客室を68室に拡張するほか、レストラン等を新設し、UDS(株)がホテルカンラ京都として一体的に運営いたします。



ホテルカンラ京都 客室



賃貸住宅「リージア代田テラス」完成

当社では、下北沢地区において鉄道跡地の上部利用を進めており、当該上部利用区間での初の竣工物件となる「リージア代田テラス」が本年1月に完成し、すでに入居を開始しております。「リージア代田テラス」は、世田谷代田



リージア代田テラス (世田谷代田)

駅から徒歩2分の距離に位置し、2階建て長屋形式を採用した戸建て住宅のようなメゾネットスタイルで、吹き抜けのリビングや専用テラスを擁するファミリー層向けの賃貸住宅です。



Odakyu OX MART

小田急商事 「Odakyu OX MART」 1号店をオープン

小田急商事(株)では、新百合ヶ丘駅改札前において、本年4月28日に「Odakyu OX MART」をオープンいたしました。「Odakyu OX MART」は、コンビニエンスストア「Odakyu MART」とスーパーマーケット「Odakyu OX」を融合させ、駅をご利用のお客さまにとって利便性の高い、新たなニーズを取り込んだ独自のニューショップです。



小田急百貨店新宿店 婦人服売場やゴルフ売場などの再編成を実施

(株)小田急百貨店の新宿店では、本年2月～3月にかけて、フロア価値を最大限に引き出すべく、フロアの再編成を実施いたしました。本館4階のヤング～キャリア層をターゲットとした婦人服フロアでは、衣料品ブランドと服飾雑貨類ブランドのカテゴリーミックスフロアに再編成したほか、本館8階リビングフロアでは、国内のお客さまはもとより訪日外国人のお客さまもターゲットとし、新規ブランドの導入ならびにMD改編を実施いたしました。更に、ハルク1階の国内最大級のゴルフ売場には、世界各国のブランドからセレクトしたウエアや雑貨類を取り扱うショップなどを取り揃え、ゴルフ愛好家の獲得はもとより次世代顧客の取り込みも図りました。

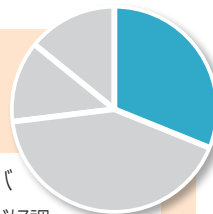


本館4階ヤングキャリアフロア

運輸業

売上高構成比

31.2%



営業収益

168,303百万円

(前期比 1.7%減)

営業利益

29,795百万円

(前期比 2.2%増)



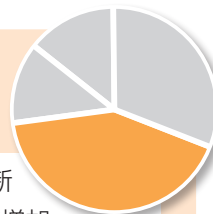
当社の鉄道事業や自動車運送事業におけるバス輸送のほか、江の島・鎌倉方面の観光輸送が好調に推移いたしました。しかしながら、自動車運送事業において、前期に石油販売の営業を終了したほか、箱根大涌谷周辺での火山活動の活発化に伴う影響を受けた箱根方面の観光輸送においては、昨年11月の噴火警戒レベル1への引下げ以降に改善が見られたものの、箱根各社における輸送人員が減少したことなどから、営業収益は減収となりました。

一方、営業利益につきましては、当社の鉄道事業や自動車運送事業における費用が減少したことなどから、増益となりました。

流通業

売上高構成比

41.9%



営業収益

225,012百万円

(前期比 1.0%増)

営業利益

3,911百万円

(前期比 23.8%増)



百貨店業において、小田急百貨店新宿店での訪日外国人による免税売上が増加したことや、ストア業等においても増収となったことなどから、営業収益は増収となりました。

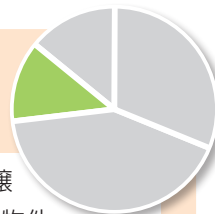
これに伴い、営業利益につきましても、増益となりました。

※売上高構成比は外部顧客に対する売上高に基づき算出しております。

不動産業

売上高構成比

12.8%



営業収益

73,002百万円

(前期比 20.0%増)

営業利益

13,190百万円

(前期比 13.9%増)



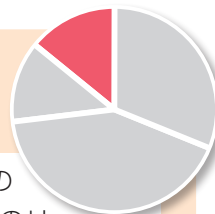
住宅販売戸数が増加した不動産分譲業や、前期から当期にかけて開業した物件の賃料収入が寄与した不動産賃貸業において増収となったことに加え、その他不動産業において、前期に子会社化したUDS(株)の売上が寄与したことなどから、営業収益は増収となりました。

これに伴い、営業利益につきましても、増益となりました。

その他の事業

売上高構成比

14.1%



営業収益

100,128百万円

(前期比 0.1%減)

営業利益

5,872百万円

(前期比 1.1%増)

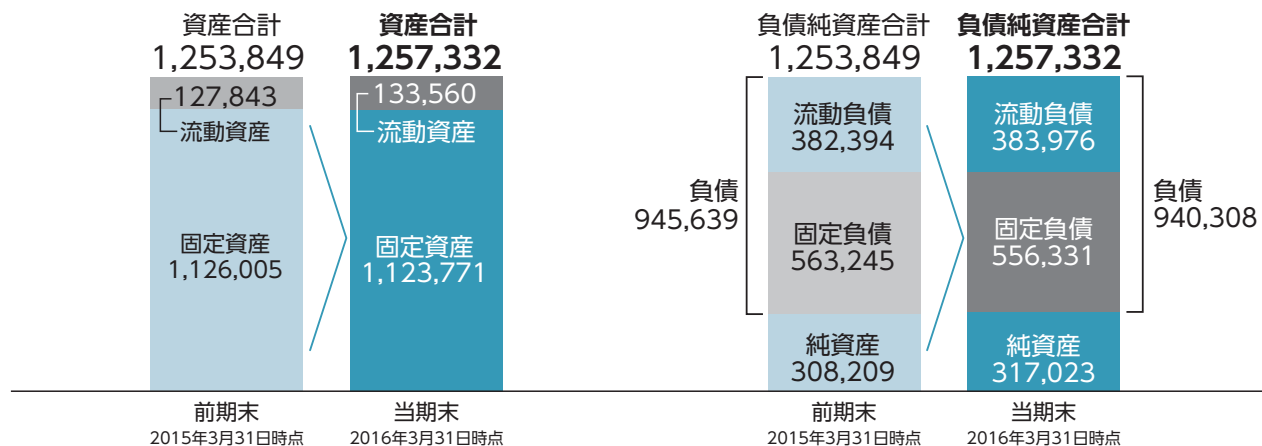


箱根大涌谷周辺における火山活動の活発化に伴う影響を受けたホテル業のリゾートホテル等において、昨年11月の噴火警戒レベル1への引下げ以降、客室稼働率等に改善が見られたものの減収となったことなどから、営業収益は減収となりました。

一方、営業利益につきましては、「ハイアットリージェンシー 東京」等のシティホテルにおいて、平均客室単価が上昇した宿泊部門を中心に好調に推移したことなどから、増益となりました。

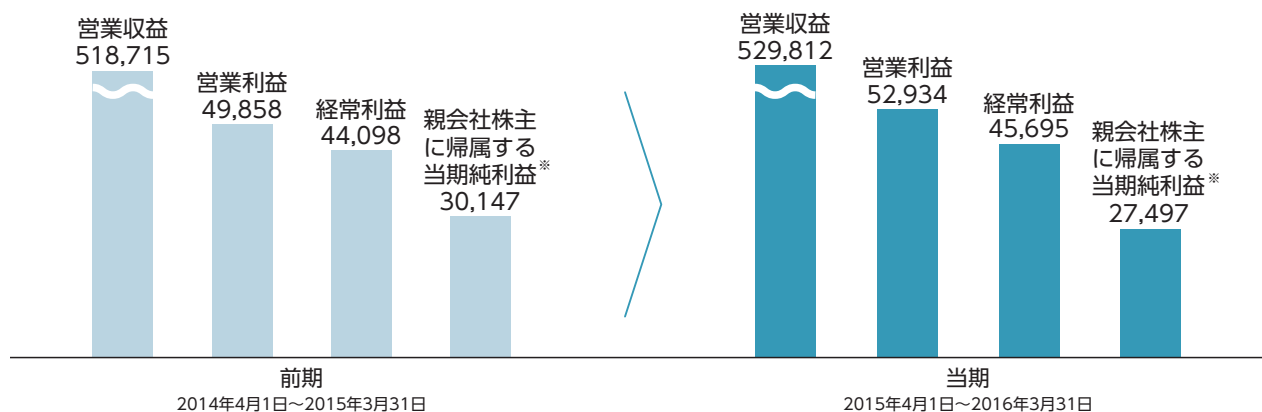
▶ 連結貸借対照表

(単位:百万円)



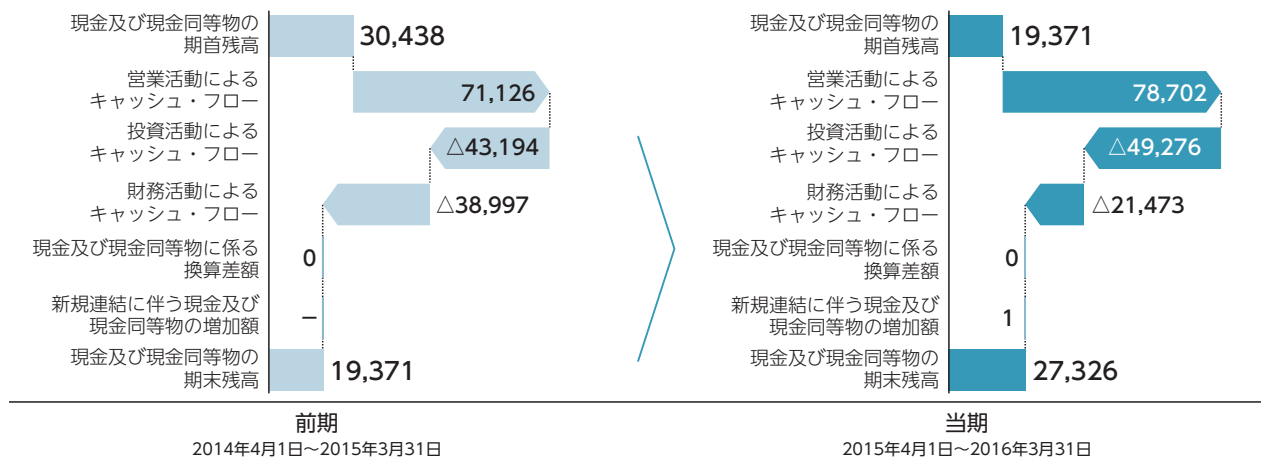
▶ 連結損益計算書

(単位:百万円)



▶ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)



POINT | 連結決算のポイント

→ 資産の部

現金及び預金の増加等により34億8千3百万円増加いたしました。

→ 負債の部

借入金の返済等により53億3千万円減少いたしました。

→ 純資産の部

親会社株主に帰属する当期純利益の計上により利益剰余金が増加したことなどから88億1千3百万円増加いたしました。

→ 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益425億7千5百万円に減価償却費や法人税等の支払額などを加減した結果、787億2百万円の資金収入となりました。

→ 投資活動によるキャッシュ・フロー

固定資産の取得による支出が増加したことなどから、492億7千6百万円の資金支出となりました。

→ 財務活動によるキャッシュ・フロー

借入金の返済や社債の償還等により、214億7千3百万円の資金支出となりました。

株主優待制度のご案内

毎年3月31日及び9月30日時点の1,000株以上保有の株主さまに、半期に1回保有株式数に応じた優待乗車証のほか、小田急グループ200以上の店舗・施設でご利用いただける優待割引券をお送りいたします。

優待乗車証と優待割引券はお手元に届いたときからご利用いただけます。

株主優待乗車証

保有株式数		乗車証の種類		
		小田急線全線優待乗車証		小田急線全線及び 小田急バス全線優待乗車証
		回数券式*	定期券式	定期券式
60,000株以上 (①~③より選択)	①	30枚	—	1枚
	②	60枚	1枚	
	③	140枚	—	
30,000株以上60,000株未満 (①~②より選択)	①	30枚	1枚	—
	②	110枚	—	
20,000株以上 30,000株未満		80枚	—	
10,000株以上 20,000株未満		40枚	—	
7,000株以上 10,000株未満		30枚	—	
5,000株以上 7,000株未満		20枚	—	
3,000株以上 5,000株未満		10枚	—	
1,000株以上 3,000株未満		4枚	—	

+

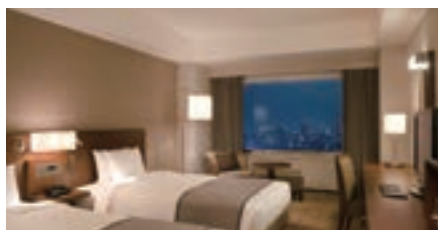
3年以上継続保有 追加枚数
小田急線全線 優待乗車証 回数券式*
10,000株以上保有 6枚追加
3,000株以上保有 3枚追加
—

*回数券式は1枚1乗車有効

そのほかの各種ご優待例



小田急百貨店、Odakyu OX
お買物割引券



小田急グループホテル
宿泊割引券、レストラン・バー割引券



茶屋本陣「畔屋」ほか
箱根エリア施設各種割引券

*掲載している株主優待制度は一例です。株主優待制度の詳細に関しては、当社ホームページ「株主の皆さまへ」をご覧ください。

*一部割引除外となる場合がございます。また、優待の内容については変更する場合がございます。

30,000株以上の
株主さまの特典

GOLF
小田急藤沢ゴルフクラブ
1,000~3,000円割引



GOLF
小田急西富士ゴルフ倶楽部
約2,000~6,000円割引



CALENDAR
小田急電鉄カレンダープレゼント
※9月30日時点の株主さまが対象

今後の日程

- 2016年 9月30日：基準日(権利付最終日27日)
- 2016年 11月 下旬：株主優待ご送付

*掲載の内容は2016年6月時点での予定です。

小田急

検索

www.odakyu.jp/

第95回定時株主総会決議等ご通知

2016年6月29日開催の第95回定時株主総会において、
以下のとおり報告並びに決議されましたのでご通知申し上げます。

報告事項

- ① 第95期(2015年4月1日から2016年3月31日まで)事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
上記事業報告、連結計算書類の内容並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果についてそれぞれ報告いたしました。
- ② 第95期(2015年4月1日から2016年3月31日まで)計算書類報告の件
上記計算書類の内容について報告いたしました。

決議事項

●第1号議案 剰余金の配当の件

原案のとおり承認可決され、第95期の期末配当について以下のとおり決定いたしました。

- (1) 配当財産の種類
金銭
- (2) 株主に対する配当財産の割当てに関する事項及びその総額
当社普通株式1株につき金4円50銭 総額3,261,796,137円
- (3) 剰余金の配当が効力を生じる日
2016年6月30日

これにより、当期の中間配当金(1株につき4円50銭)を加えた1株当たりの年間配当金は、前期に比べ50銭増配の9円となりました。

●第2号議案 株式併合の件

原案のとおり承認可決され、当社の株式について、中長期的な株価変動を勘案しつつ、投資単位を適切な水準に調整することを目的として、2株を1株に併合し、発行可能株式総数を22億株から11億株に変更することといたしました。なお、本件及び2016年5月20日開催の取締役会において決議いたしました単元株式数の変更(1,000株から100株に変更)に係る効力発生日は、2016年10月1日であります。

●第3号議案 取締役15名選任の件

大須賀頼彦、山木利満、小川三木夫、星野晃司、金子一郎、山本俊郎、森田富治郎、野間口有、中山弘子、天野 泉、下岡祥彦、小柳 淳、抱山洋之の各氏が再選されるとともに、荒川 勇、五十嵐秀の両氏が新たに選任され、それぞれ就任いたしました。なお、上記のうち、森田富治郎、野間口有、中山弘子の各氏は社外取締役であります。

●第4号議案 監査役5名選任の件

高原俊二、宇野郁夫、深澤武久、伊東正孝の各氏が再選されるとともに、石井良雄氏が新たに選任され、それぞれ就任いたしました。なお、上記のうち、宇野郁夫、深澤武久、伊東正孝の各氏は社外監査役であります。

以上

第95期期末配当金は、同封の「期末配当金領収証」により、ゆうちょ銀行全国本支店及び出張所並びに郵便局(銀行代理業者)でお受け取りください。また、銀行等の口座への振込をご指定の方には、「お振込みについて」を、株式数比例配分方式をご指定の方には、「配当金のお受け取り方法について」を同封いたしましたのでご確認ください。なお、すべての方に同封いたしております「配当金計算書」は、配当金をお受け取りになった後の配当金額の確認資料や、確定申告を行う際の添付資料としてご使用いただけます(株式数比例配分方式をご指定の方につきましては、お取引の証券会社等へご確認ください)。

会社概要

設立	1948年6月1日 (前身の小田原急行鉄道は1923年5月1日設立)
本社事務所	東京都新宿区西新宿一丁目8番3号
資本金	603億5千9百万円
発行済株式の総数	736,995,435株
株主数	50,375名(前期末比 1,200名減)
事業内容	鉄道事業、不動産業、その他事業
従業員数	3,593名

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月下旬
同総会議決権行使株主確定日	3月31日
配当金受領株主確定日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人 特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
事務取扱所 (郵便物送付先) (電話お問い合わせ先)	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-782-031 (フリーダイヤル)
公告の方法	電子公告により行う。
ホームページアドレス	http://www.odakyu.jp/ir/koukoku/index.html

役員

2016年6月29日時点

代表取締役会長 執行役員	大須賀 頼彦	常勤監査役	高原 俊二
代表取締役社長 執行役員	山木 利満	常勤監査役	石井 良雄
専務取締役 執行役員	小川 三木夫	監査役	宇野 郁夫
専務取締役 執行役員	星野 晃司	監査役	深澤 武久
常務取締役 執行役員	金子 一郎	監査役	伊東 正孝
常務取締役 執行役員	下岡 祥彦		
常務取締役 執行役員	山本 俊郎	執行役員	黒田 聡
取締役 執行役員	荒川 勇	執行役員	立山 昭憲
取締役 執行役員	五十嵐 秀	執行役員	岩崎 佳之
取締役	森田 富治郎	執行役員	水上 秀博
取締役	野間口 有		
取締役	中山 弘子		
取締役	天野 泉		
取締役	小柳 淳		
取締役	抱山 洋之		

株式に関する「マイナンバー制度」のご案内

1 マイナンバー制度とは

マイナンバー制度(※)とは、国民一人ひとりにマイナンバーを配布し、その番号によって複数の行政機関に存在する個人の情報を正確に連携させるための新しい社会基盤です。

(※)行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律(平成25年5月31日法律第27号)

2 株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、支払調書に株主さまのマイナンバーを記載し、税務署に提出いたします。

主な 支払調書

- 配当金に関する支払調書
- 単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

3 マイナンバー制度に関する株主さまへのお願い

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続きが必要となります。このため、株主さまから、お取引の証券会社または三井住友信託銀行へマイナンバーをお届出いただく必要がございます。

マイナンバーのお届出に関するお問い合わせ先

証券会社の口座にて株式を 管理されている株主さま	証券会社とのお取引がない株主さま
お取引の証券会社まで お問い合わせください。	下記フリーダイヤルまでお問い合わせください。 三井住友信託銀行 証券代行部 フリーダイヤル 0120-782-031

マイナンバーの保護措置・利用範囲・ご提供について

- マイナンバーの取扱いには、法律により厳格な保護措置が設けられております。
- マイナンバーの利用範囲は、社会保障・税・災害対策に関する事務に限られております。
- 社会保障や税に関する事務に限って、マイナンバーのご提供をお願いすることが可能となっております。

このページでは、当社グループが行うCSR活動についてご紹介をしています。

小田急グループ 親子体験イベントを実施しています。

小田急グループでは、2000年より、小学生のお子さまとその保護者を対象に、「小田急グループ 親子体験イベント」を開催しています。このイベントは、小田急グループのさまざまな業種や施設などを親子で楽しく体験していただき、事業や商品・サービス、環境への理解を深めていただくことを目的としています。例えば、運転士・車掌の仕事や電車が動く仕組みについて学び、車両洗浄などの見学を行う「ファミリー鉄道教室」や(株)小田急百貨店による「デパートガール体験」、(株)小田急リゾート(小田急ホテルセンチュリー相模大野)による「パティシエ体験教室」、(株)北欧トーキョーによる「パン教室」などのイベントも開催しています。

今後も、このようなお客さまとのコミュニケーション活動を通じて、当社及び小田急グループのファン作りに努めてまいります。



小田急電鉄では、小田急グループのCSRの取り組みについてより幅広くご理解いただくことを目的にCSRレポートを発行いたしました。詳しくは、ホームページをご覧ください。



小田急 CSRレポート 2015 [検索](#)



小田急電鉄株式会社

〒160-8309 東京都新宿区西新宿一丁目8番3号
IR室 電話03(3349)2526 ホームページアドレス <http://www.odakyu.jp/>



本冊子は、環境に優しい植物油インキを使用して印刷しています。